

「より実践的な会話トレーニングの紹介と課題」レジュメ

1. 会話トレーニングの考え方

- ① テキストに沿った学習だけでは不十分である。
- ② 『外国語を身につけるための日本語レッスン』三森ゆりか著 白水社を紹介し、多くの日本人は、教える側も教わる側も発信型の外国語教育に慣れていないことを指摘する。



- ① 発信型のトレーニングを一から始めなければならない。
- ② まずは単純な情報伝達を中国語で行うトレーニングから始める。
- ③ 単純な情報伝達は、後に中国語での説明や議論へとスキルアップするための第一歩である。

2. アプリの紹介

単純な情報伝達トレーニングを『みだれ撃ち中国語 聴いて答えて』という iPhone アプリを使って行う。アプリ中の短文（ほとんどは疑問文）の語彙と文法は、アルク『中国語検定徹底対策準4級』関西大学中国語教材研究会編 アルクを基礎にしている。

3. トレーニングの進め方（ビデオあり）

- ① 録音音声を2回流す。
- ② 講師が1回ゆっくり読む。
- ③ 文字を見せる。日本語訳はしない。
- ④ 受講者を指名して、二言以上答えさせる。
- ⑤ 必要に応じて日本語訳をする。
- ⑥ 音読。

ビデオ：学習歴1年前後からの趣味初級クラス 3名。

前回のレッスンで『中国語検定徹底対策準4級』をテキストとして学習し、今回は復習としてこのトレーニングを利用している。

4. 初級指導ポイント（ビデオ、配布資料あり）

ビデオ：学習歴4、5年以上の趣味中級クラス 7名。

このクラスは復習としてではなく、ぶっつけ本番のトレーニング。

配布資料はこちらをご覧ください。

5. 課題

この方法は講師にとって難度が高く、対策マニュアル、勉強会などが必要である。